

プロドライバーが講師にあたる本格スクール 座学からサーキット走行 まで充実の1日に



2014.10.18

Be a driver. マツダ・ドライビング・アカデミー with Tetsuya OTA

プロドライバーがきちんとカリキュラムを組み
座学から始めるドライビングレッスン
バイロンスラロームなど走行の基本から始めるので
スポーツ走行の経験がなくても問題ない
まずはここから始めるのがいいだろう



従野孝司講師

桂伸一講師

太田哲也講師

座学

ベテラン講師が教える
セーフティドライビングの
ワンポイントアドバイス

講師はル・マン24時間レースにフェラーリで参戦した経験を持つ太田哲也氏のほか、雑誌の編集を経てレーシングドライバーになった桂伸一氏、マツダのテストドライバーを勤めた従野孝司氏の3名。アクセルは「曲がる」をコントロールし、ブレーキは荷重移動を制御するもの。これをきちんと把握したうえで練習を行う。「スピンしなくても速くなります」と太田氏。座学で教わった「安全への意識」を高めたら、いよいよ走行開始だ。



それぞれの視点からいかに安全運転が大切か、それはサーキットにおいても同様だということ伝える。難しい講釈ではなく一般道における話なのですと入ってくる。

走り出す前にドライビングポジションをきちんと合わせる事が大切だ

参加者はグループ分けされ、それぞれの講師についてドライビングポジションについて教わる。ステアリングを切るときの腕の角度を調整し、シートの前後を合わせる。スポーツ走行はいつもの運転よりもスピードレンジが上がるため、街中とは異なるポジションにセットすることになる。街中でも意識するだけで変わってくるはずだ。



各班ごとに教習車を使ってドライビングポジションの合わせ方を教えてもらう。



真剣な表情で講師のアドバイスの聞き入る参加者。スポーツ走行はまったくの初めて、という人も多い。



サーキットで出される旗の色と意味を教わる。旗を見る余裕＝周囲の状況をつねに確認しているということだ。

「慣れる前に習う」で
安全に速く走れるように

ドライビングレッスンといっても、何もサーキットを速く走ろうというものではなく、安全運転を楽しむ学ぶものである。

「事故の9割は人為的なものです。環境やクルマのデバイス進歩だけでは事故は減りません。速く、より上手くです。マナー、意識、知識を身につけることでスキルアップします」と講師の太田哲也氏。
ツインリンクもてぎで行われたマ

ツダ・ドライビング・アカデミーはこうした説明から始まった。初めて参加した人の緊張もこれでほぐれただろう。気負って参加しなくてもいいのだと理解してからスタートだ。
マツダ車を対象にしたスクールには、ロードスターのほかに「デミオ」やRX-8、アテンザそしてCX-5までそろった。駆動方式もサイズもタイプも異なるわけで、サーキットを速く走るためのだけのレクチャーでないことがうかがえる。今より運転が上手くなりたい。そう考えて参加する人も多いのだ。

ザ・ネットの誘い Step.1

スラローム走行

ドライビングの基礎がぎっしり詰まっている

クローズドコースにパイロンが並べられた特設コースが設定されている。ここではスラロームだけではなく、一定速度までの加速からフルブレーキングもメニューに含まれている。これらを繰り返すことによって、挙動の変化を感じ取ろうというもの。フルブレーキといっても、ABSが搭

載された車両が大半。それでも意外と思いきってペダルを踏めないものだとわかる。一般道では決してやらないであろう動作を、閉鎖された場所で行うことでいざという場合に備えられるようになる。経験を積むことで、運転に対する心構えも変わってくるというものだ。



走行後に講師からそれぞれにアドバイスが与えられる。それに注意して次から走るようにする。



講師によるデモンストレーションを食い入るように見つめる参加者。次はいよいよ自分たちが走ることになる。



講師の助手席に座り、どんなふうに加減速しているかを見ることも大切だ。いかに自分がメリハリのない運転をしていたかに気付く。

新型アクセラの試乗もできる！ クリーンディーゼルを体感

広いコースの片側では、こちらもゆるやかなコースを作ってアクセラの試乗会が行われた。各クラス持ち回りで順番に乗り込む。ガソリンとディーゼルの2タイプが用意され、ディーゼルはマニュアルミッションだった。

テレビCMでやっているように、トルクフルなフィールにみんな驚いているようす。詳細をマツダのスタッフに聞くなどしていた。これはドライビングスクールのうれしいおまけ。



制限速度が設定されているが、新型アクセラをコースで走らせることができた。



場所の移動をともなうが、わかりやすくインフォメーションしてくれる。

コース走行

ミニサーキットのようなコースで、ウォーミングアップを



1台1台、順番にコースに出ていく。最初は緊張していた初心者も、時間が経つにつれ表情が変わっていく。



講師の後ろに付いて走ることで行き先を覚える。スポーツ走行らしく、徐々に速度を上げていく。

スラローム、フルブレーキングの練習が終わったら、次は高速コーナーを含めたコースがパイロンで設定される。ちょっとしたミニサーキットくらいのレベルなので、ここでしっかり走り込んだら相当うまくなりそう。フリー走行タイムも設けられており、練習を重ねることができる。講師からのアドバイスを頭に入れて走るようにする。

サーキット走行

いよいよサーキットコースを走行する
ライン取りよりもメリハリのある動作を

クローズドコースで走行を重ね、スポーティな動きを身につけたら、1日の集大成ともいべきサーキット走行が待っている。サーキットを走りたくて参加したという人もいよう。走行するのはツインリンクもてぎ東コース。講師の後に続いて走ったあとは、アドバンスクラスの参加者はフリー走行となる。初心者対象のベーシッククラスは見学タイムだ。無事に走り終えたころに日没となり、あたりは一気に暗くなっていった…。

コースのライン取り、注意事項のポイントなどが説明されるが、初めてだと何をどうしていいやら、難しく思う。

ENTRANT

V O I C E

NC
中野 清さん



こうしたイベントには初参加
ちょっと前までマツダに勤務!

「2011年退職です。マツダの社員が取得する三次のライセンステストで、講習も受けずに走行したら落ちちゃったんです(笑)。正式な運転の仕方を教わったことがないので、ここでしっかり学んでおこうと。NAに乗っていたこともあります。当時は子供も小さくスポーツ走行なんてできませんでしたから、いちマツダファンとして楽しんでいます」



NA
田村正弘さん



かなり前にスクールを受講
今一度運転を見直そうと参加

「奥さんが乗ってたロードスターに乗って10年以上になります。だいぶ前にベーシッククラスを受けたことがあります。facebookを見て申し込みました。普段は通勤で使うくらいですが、スラロームもやってみるとおもしろいです。インストラクターには「飛ばして踏む」とアドバイスを受けました。ちょっとサーキットもいいかなと思っています」



NB
土井良子さん



挙動がおっかなびっくり!
だけど本人的に楽しめています

「サーキットを走ってみたいと思っていたので、エントリーしました。こうした機会は初めてです。フルパッケージシートを入れたんですが、スポーツ走行でもラクです。もう純正シートに戻れません(笑)。スピードを出してもブレーキがバーンと踏めなくて。もう1回走りたいです。マーチからの乗り替えですが、運転の仕方がまったく違いますね」



NA
萩野一也さん



スポーツ走行をやってみようと
どノーマル状態で参加です

「初めてのドライビングスクールです。このロードスターは知人から購入して、まだ半年くらいなんです。初めての愛車でもあります。モータースポーツに興味があるので、まずはレッスンを受けようと。ノーマルのままでも楽しめますが、不満点をパーツで補ってあげたいかな。アクセルもブレーキもバーンと踏むようアドバイスをもらいました」



NC
鈴木芳昭さん



初めてのドライビングスクール
基本から学びます!

「カービューの案内を見てイベントのことを知りました。NCに乗って7年ほどになりますが、ディーラーの試乗車だったんです。FR+オープンに乗りたいたいと思って。それまでもブジョーのMT車に乗るなど、ずっとMTです。座学で習ったことをしっかり実践できるようにしたいです。思いきり走れるのがいいですね、楽しいです」



NA
小出崇夫さん



インターネットで見つけて
申し込んで参加してみました

「レーシングカートはやってたことがあるんです。でも乗用車でこうしたスポーツ走行をするのは初めてですね。なのでベーシッククラスを受講することにしました。公道では出せないようなスピードで走れるのがいいですね。サーキットも走ってみたいとは思いますが、ロールバーなんか付いたら家族に白い目で見られそうだし」



修了式

すべての走行が終了したら1日を振り返りつつ終了の証を授与

大きなトラブルもなく東コースの走行を終え、再び受講室に戻って修了式を行う。ひとりひとりにレッスンを受けた証が配布されるのだ。こうした配慮がスクールっぽい。各自1日を振り返って、次へのステップ、目標を考える。「スポーツ走行のテンションそのまま公道を走らないように」という講師の言葉に一同苦笑。公道を飛ばすためではなく、安全運転のためのレッスンなのだから。しっかり心に刻んで「お疲れさまでした〜」



修了証には太田哲也講師のサインが入る。しっかり学べたうえに、いい思い出にもなるのだ。



修了証をもらった晴れ晴れとした笑顔。真剣ながらも和気あいあいとした、じつに実りのあるアカデミーだ。

マツダの開発スタッフや出光興産の興味深い話も当イベントならではの

ランチタイムの合間に行われたのが、ゲストによるトークショーだ。試乗会が用意されていたアクセラの開発スタッフ・岡本さんからは、「乗って笑顔になれるようなクルマを開発しています。最終的なスペックなどは、現場で決めていくものなんですよ」。そして出光興産の山口さんからは「マツダとは50年来のお付き合い。純正オイルはもちろんルマンレースのオイルも担当し、優勝しました」と深い話!



マツダ 開発スタッフ 岡本隆秀さん



出光興産 山口崇弘さん

アクセラの設計や実験を担当しており、企画から量産まで手がけていた。マツダの純正オイルがずっと前から出光興産だったと披露。意外に近しい関係だった。



NC 荒井俊美さん



別イベントに参加したことありそれぞれ得るものがある!

「以前、富士スピードウェイで寺田さんが行っているスクールに参加したことがあります。今日のスクールとは教え方は違いますが、どちらも勉強になります。このスクールは初めての参加となります。アクセラターボから乗り替えました。もうドア4枚なくてもいいかって(笑)。ムダに速いよりも燃費もいいし、走っていて楽しいです」



NC 佐藤晃代さん



ツインリンクもてぎは初めて走るの楽しみです

「パーティレースに参加しています。富士スピードウェイで行われているスクールなど、よく参加しています。でもパーティレースに参加しているほかの選手よりは練習量が少ないほうだと思います。走ってないと目がおとろえるんですね〜。日々トレーニングです(笑)。ツインリンクもてぎは未走行で楽しみ。1日走ってみたいくらい」



NB 花田祥照さん



スポーツ走行を始めて1年東コースを走ってみたい

「山野哲也さんのスクールに参加したことがあります。サーキット走行会なんかにも参加していますが、人馬一体とはなかなか程遠い(笑)。インテグラから乗り替えたんですが、パワーを持て余してました。ロードスターはパワーがなくても楽しいと聞いて購入しました。操る楽しさを感じつつも、怖い面もありますね。カウンター当てられないし…」



ガソリンの誘い
Step.1